

先進的あるいは特色ある教育課程	学校名等	課程
「学習評価の充実」	埼玉県立常盤高等学校	全日制・看護科

ア 取組状況について

① 教育課程

(教育課程編成)

- ・本校は昭和45年に常盤女子高校として創立。平成15年に共学化し、現在の校名になる。
- ・埼玉県内唯一の看護科の高校であり、看護専攻科と併せて、5年一貫教育の看護師養成専門高校である。各学年2クラス、80名であり、専攻科を含めて定員は400名。5年連続、看護師国家試験の合格率は100%である。
- ・高校では、LHRを除く93単位のうち、各学科に共通する科目が60単位、看護に関する科目が33単位で教育課程を編成している。

(授業展開)

- ・看護における臨床判断能力の育成のため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業が展開されている。看護科というと、知識・技術の習得が主とされているが、コミュニケーション能力を始めとした思考力や判断力の育成が欠かせない。
- ・ICTの積極的な活用に取り組んでいる。また、埼玉県の「未来を拓く『学び』プロジェクト」の指定校として、協調学習（ジグソー法）に全校挙げて取り組んでいる。

② 教員の指導力向上

(教員研修)

- ・平成26年度から5年間、文部科学省より「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」(SPH)の研究指定を受けた。その際にスーパーバイザーの指導の下、「育てたい力(身に付けたい力)」の30項目を評価の視点として、各教科・科目のルーブリックを作成した。
- ・ルーブリックの評価の視点に沿った授業改善を行い、指導と評価の一体化を推進している。
- ・研究指定終了後も、定期的にスーパーバイザーの指導を受け、オンラインでの研修会などを継続し、現学習指導要領に沿った観点別評価について、継続的に研修を実施している。

(外部人材の活用)

- ・シンクタンク未来教育ビジョン代表・・・プロジェクト学習や学習評価の研修
- ・日本薬科大学、埼玉県立大学など・・・実験や特別講義などの高大連携
- ・埼玉県立病院、埼玉メディカルセンターなど臨地実習先の医療機関多数

③ 校内組織

- ・SPH 指定期間は、校長を委員長とした研究推進委員会を中心に、すべての教員がいずれかの部会に所属し、研究を行った。
- ・観点別学習評価については、管理職を含む教育課程委員会を中心に、検討を重ねた。既に、ルーブリックによる評価を作成しており、現学習指導要領に沿った改訂をした。

④ 施設設備

- ・全普通教室へのプロジェクタ、アクセスポイント、オンライン授業に活用するBYOD回線が整備された。今年度の入学生から全員タブレットを購入し、授業での活用や授業の理解度、学習到達度状況の確認、看護の電子教科書の採用、デジタルポートフォリオの作成などを行っている。

⑤ 取組の成果の(都道府県)全体への普及・共有方法

- ・県の事業発表会や産業教育フェアなどで、学校の取組の成果を発表している。
- ・県校長協会教育課程部会にて、取組の成果と課題の報告や共有をしている

イ 今後の課題

- ・各科目及び単元ごとの評価規準や観点について、シラバスを使って生徒・保護者へ周知しているが、今後も検討と改善を継続することが必要である。
- ・看護科は県内唯一であることから、看護科の教員の人事異動がないことや特別免許や臨時免許の教員も多いことから、毎年、担当する科目を固定化しない、定期的に研修会を開催するなど、マンネリ化しない工夫を必要としている。